

NAOMI PIAZZA  
FLAMENCO  
CONCIERTO

'13



# “VOLVER”

ボルベール ～帰郷～

MIGUEL CAÑAS / NAOMI PIAZZA / ANA GONZÁLEZ

JOAQUIN LINERÁ / MIGUEL RAMOS / PACO REYES / SAMARA MONTANES / CARMELO MURIEL

2013年4月20日(SAT) 開場 18:30 開演 19:00 神戸市立 灘区民ホール

〒657-0832 神戸市灘区岸地通1-1-1 TEL.078-802-8555 FAX078-802-9811

【出演者】踊り/ナオミ・ピアッツァ ミゲル・カーニャス アナ・ゴンザレス 舞踏団  
ギター/ホアキン・リネラ ミゲル・ラモス カンテ/パコ・レジェス サマラ・モンタニェス  
サクセス&フルート/カルメロ・ムリエル

【主催】ナオミピアッツァフラメンコスタジオ

Naomi Piazza Flamenco ESTUDIO

# Primer 第1部

## Reencuentro ~ 出会い そして再会 ~

Rondeña ロンデーニャ | 出演者/ナオミ・ピアッツァ ミゲル・カーニャス アナ・ゴンザレス  
振付/ミゲル・カーニャス

ロンデーニャは、マラガの北にある山間の街ロンダの古い民謡がもとになった曲です。

## Silencio a Voces ~ 静けさの中の叫び ~

Debla デブラ | 出演者/サマラ・モンタニェス パコ・レジェス ナオミ・ピアッツァ

メロディが非常に繊細で、多くのメリスマ(こぶしのようなビブラートのような装飾音)を使い表現される大変美しい唄です。リズムはリブレ(自由)に歌われます。

## A golpe y Compás ~ リズムと旋律 ~

Martinete マルティネーテ | 出演者/舞踊団 振付/アナ・ゴンザレス

カンテ・ビエホと呼ばれジブシーの古き深い絆の曲で無伴奏で歌われることもあります。  
踊りのレパートリーとしてシギリージャと組み合わせて踊られることも多く、バストン(杖)を用いて踊ることもあります。

## "Volver" ~ たどりつかない愛 ~

"Volver" ボルベール | 出演者/ナオミ・ピアッツァ ミゲル・カーニャス 振付/ミゲル・カーニャス

Volver(帰郷)というアルゼンチンタンゴの曲をフラメンコのブレリアというリズムにアレンジしコンテンポラリー要素を多く含んだ作品にしています。

## De ida y vuelta ~ キューバからの香り ~

Guajiras グアヒーラ | 出演者・振付/アナ・ゴンザレス

1898年のキューバ戦争終戦後、多くのスペイン人移民たちは悲しみ一杯で母国スペインへと戻ってきましたが、グアヒーラがカディスに到着した時には  
明朗さを取り戻し、愛やパナの美しさ・魅惑を新しく歌詞に取りこまれ歌われました。  
そして官能的で、卑猥で、太陽に溢れたカリブの懐古を詰め込んだ Ida y Vuelta(行き帰り)の歌として扱われています。

## Intermedio ~ 休憩 ~

### ミゲル・カーニャス (バイレ)

1987年にパコ・ロメロ主催の作品にソリストとしてルイシージョ劇場に出演。後、ラファエル・アギラール舞踊団に所属し、作品"イエルマ"に出演。アントニオ・カナーレス主催作品"カルメン" "トレロ" "ベルナルダ・アルバの家"に出演。サラバラス主催作品ガルシア・ロルカ作の"マリアナ・ピネダ"でドン・フェルナンド役を務める。2002年と2004年にミュージカルフラメンコ"タラントス"で役者そして踊り手としてプリンシパルを務め、特別賞であるマックス・デ・ラス・アルテスエセニカス賞を受賞する。後、ダンサハートというカンパニーを創設し、"エレメントス・イ・シレンシオ"で振付師として数々の賞を受賞する。アントニオ・カナーレスの"シンデレラ"、ホアキン・グリロの"デ・ノチュ"やラ・トゥルコ、カルメン・ラ・タレゴナ、インマ・オルテガ、ラタティなど数々のアーティストの作品を振付する傍ら、今までブラジル、パリ、バルセロナ、ミラノ、セビージャ、ニューヨーク、ブエノスアイレス、東京などに渡りクラスを開催している。現在はマドリードのフラメンコスタジオ アモール・デ・ディオスの専属講師であり、踊り手そして振付師としてフラメンコ舞踊界では多数の経験を得る。2012年11月~2013年3月、ナオミピアッツァフラメンコスタジオにて講師を務める。



# Segundo 第2部

## Aires del Sur ~ 南風 ~

Musical instrumental インストゥルメンタル

## Del Sur al Sol ~ アンダルシアの太陽 ~

Bulería ブレリア | 出演者/舞踊団

フラメンコ形式の中で、最もはつらつとし生命力に満ちた曲です。踊り手はカンテとギターの調子に合わせ、短い時間の中で自分の個性を華やかに引き出し、溢れんばかりのリズム感で踊られるため「フラメンコの華」とも言われています。

## Quebranto ~ 悲嘆にくれて... ~

Seguiriya シギリージャ | 出演者・振付/ミゲル・カーニャス

ジプシー達の世俗的悲劇の苦悩、嘆きの歌であり、歌い手にとって最も難しい曲のひとつとされています。踊りはまるでカンテに應えるようにとても深みがあり重厚、一方ギターは控えめで悲壮・儀式的であり容易な飾り付けをしないで演奏されます。

## Corazón Mensajero ~ 心からのメッセージ ~

Fandangos ファンダンゴス

アンダルシア地方のウエルパのファンダンゴです。民族色のある曲で、テンポには重さと切れがあります。

## De la nostalgia ~ 郷愁 ~

Furruca ファルーカ | 出演者/ナオミ・ピアッツァ 振付/ミゲル・カーニャス

ファルーカとはスペイン北部のアストリア地方から来た人や、渡ってきた鳥をアンダルシア地方の人たちが呼んだ名前です。この歌もスペイン北部から伝わったのでこの名前がついたと言われています。その踊りはエレガントで美しさと柔軟性を持つと同時に奥ゆきと力強いアイルを調和させ、男性舞踊手によって多く踊られています。

## Algarabía ~ 歓喜 ~

Tangos タングス | 出演者/全員

2拍子の強いアクセントを持つタンゴの曲想は、リズムカルな中に直接的な重みの有る深さを持ち心を掻き立てます。力強さ、たくましさは、タンゴに欠かせない2つの要素です。

## アナ・ゴンザレス (バイレ)

1979年、5月7日にカディスで生まれる。踊りは幼少の頃から始め、インマクラダ・ガルシア、ビラール・オガジャ、コンチャとサラ・バラスなどのアーティストに師事すると同時にペーニャ・テルトゥリアやカマロン・デ・ラ・イスラに度々出演する。1997年、日本の志摩スペイン村(バルケ エスパーニャ)でフラメンコショーに出演するため1年間滞在する。1998年~2010年、サラ・バラス舞踊団に入団し、数々の作品"スエニョス"、"ファナ・ラ・ロカ"、"マリナ・ビネダ"、"サボーレス"などに出演し世界中でツアー公演を行う。2002年、サラ・バラス舞踊団で活躍する傍ら、アントニオ・エル・ビバ主催の作品"ベンシア"に出演。そしてマドリードにある老舗のタブラオ"カサ・バタス"や"カフェ・デ・チニータス"、"コラル・デ・ラ・モレリア"などに定期的に出演する。2008年、夏のフェスティバルでメレンディと共に音楽ビデオに出演しダンサ賞を受賞。アンダルシアツーリストのマラガ紹介にも出演する。2011年、ドミニカ共和国の"アルスール・デル・スール"に招かれる。ホセ・バリオスと共にカサ・バタスで1週間ライブを行う。またカサ・バタス主催の公演をアメリカ合衆国の舞台で行う。2012年6月~11月、ナオミピアッツァフラメンコスタジオにて講師を務め、2013年4月現在再来日し、クラスを開講している。



# Performer profile

出演者 プロフィール



## サマラ・モンタニェス (カンテ)

サマラ・モンタニェスは若い世代のヌエボ・フラメンコの中でもカディスを代表するカンタオーラ(歌手)。14歳より歌手として本格的に活躍する。カディスでのアレグリアスのカンテコンクールで賞をとる。コスタリカ、ポルトガル、イタリアなどで公演をし称賛を得る。パコ・デルシアやロサリオ・フローレスなどと共演する。



## パコ・レジェス (カンテ)

約20年間ホアキン・ビジャールと共に数々の舞台をふむ。彼のカンテはハスキーで力強さが特徴である。カディスのティエントスのカンテコンクールで賞をとる。チャロ・クルス、アナ・ゴンザレス、リディア・カベージらと共演。またフラメンコのフェスティバルで世界中をまわる。劇場での作品では"アポステリオリ"や"ラサ"などがある。現在カディスを代表するカンタオール(歌手)である。



## ホアキン・リネラ (ギター)

1965年にカディスに生まれる。14歳のときにカディスでマノロ・ギメラにギターを習い、ヘレスのペーニャ"エンリケ・エル・メジソ"や"ラ・ベルラ・デ・カディス"などに出演するようになる。ランカビーノ、エンリケ・エクストレメーニョ、チャノ・ロバートその他大勢のカンタオールと共演。また、サラ・パラス、リディア・カベージョ、エル・フンコ、ロサリオ・トレドなど大勢の踊り手との共演を経験する。その後、フラメンコ・エン・ルーツやミゲル・アンヘルパレエ団でギタリストとして世界各国をまわる。エンリケ・リネラ監督、ミゲル・カーニャスとアナ・ゴンザレス振付の"アポステリオリ"の作曲もする。



## ミゲル・ラモス (ギター)

1989年にブエルトレアルのリビアナコンクールで優勝する。1995年にカディスの"マヌエル・デ・ファジャ"音楽院を卒業する。イシドロ・ムニョスやヘラルド・ヌニェスに師事する。クエロ・マレーナ、ピト・デ・カディス、ミゲル・ロセンド、エル・モミソその他のカンタオールと共演する。ロサリオ・トレド、アンドレス・ペーニャ、アナ・サラサル、アントニオ・カルボネルその他の踊り手と共演する。三重県のパルケエスパーニャに3年間出演する。また東京のタブラオ"エル・フラメンコ"に10ヶ月出演するなど世界各国で数々の舞台に出演している。



## カルメロ・ムリエル (フルート&サクソ)

アントニオ・トレドのグループに入りジャズフラメンコやジャズ音楽を学ぶ。バルセロナの"タジェール・ムジコス"でチャノ・ドミンゲス、ホルヘ・パルド、アントニオ・メサ、ホアキン・パリージャに師事する。1996年よりサクソとパーカッションのグループ"サソボンゴ・カルテット"を結成。後、ホアキン・リネラと出会い数々の劇場やタブラオで共演する。2009年"エル・ハルディン・デ・ラス・ナランハス"に出演する。

## ナオミ・ピアッツァ舞踊団

大西 智子 高田 真紀子  
高田 直子 趙 美智子  
東 麻子 森川 幸美  
ローリー・ドワイヤー (50音順)

## スタッフ

舞台監督 秋津 シズ子  
照明 藤原 本子  
音響 大西 弘雅(ハーフノート)  
衣裳 中田 紅子、ソレダ・デルガド

# Greeting

今日はコンサート "ボルベール" に  
足をお運び下さいまして有難うございました。  
今回は自分の心の原点に戻り、気持ちを一新させ、  
そして自分がこれから目指していこうとする  
フラメンコを観て頂けたらと思います。  
現在は世界のアートとなり進化しつづけるフラメンコを  
皆様に感じて頂けたらうれしく思います。  
共演者のミゲル・カーニャス、アナ・ゴンザレスをはじめとして  
素晴らしいバックメンバーに恵まれ、  
良い舞台になるよう精一杯がんばります。  
最後にこの舞台にご協力いただいた  
すべての方々に感謝致します。

2013年 4月20日  
ナオミ・ピアッツァ

*Naomi Piazza*



## ナオミ・ピアッツァ

1974年11月30日生まれ。大阪出身。5歳からクラシックバレエを学ぶ。

16歳の時、フラメンコに出会い、すぐに才覚を現し、17歳から 神戸のフラメンコライブハウス、タブラオ他様々な舞台に出演。1992年、18歳の時、1年間スペインに渡り、マドリッド、セビージャにて、ローリ・フローレス、ミラグロス・メンヒバル、ラウール・マティネス、アンヘル・トーレス、アンドレス・マリン、アドリアン・ガリア、メルチェ・エスメラルダ、ドミンゴ・オルテガに師事。

帰国後はプロとして、さらにイベント、タブラオ、舞台公演などで活躍し、その間にも渡西を重ねる。彼女のフラメンコに対する情熱は留まることなく、毎回の公演では、新作を発表し、進化続けるバイラオーラである。日本人という枠を超え、ラテンの血を感じさせるダイナミック、且繊細なその踊りは、フラメンコファンのみならず、全ての観客を魅了し続けている。